

京都教区時報

<https://www.kyoto-catholic.net/>

カトリック京都司教区
 広報委員会
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

私は社会に出る際、《これから自分のいのちを何に使えば良いのか》という人生の課題を投げかけながら1984年の夏、教会主催の「東九条地域現場研修」に参加し、キリスト者の活動に出逢い仲間を得、東九条の現場で在日コリアンの歴史・現状・課題を多くの方々から学び、これが人

2025年の聖年のテーマは「希望」。「第二バチカン公会議が断言しています。『教会は、つねに時のしるしについて吟味し、福音の光のもとにそれを解明する義務を課されている。現世と来世のいのちの意味、また両者の相互関係について人間が抱く永久の疑問に対し、それぞれの世代に適した方法をもってこたえることができるであろう。』…まさしく救ってくださる神の現存を必要とする人間の心の渴望を含んだ時のしるしは、希望のしるしへと変えられることを望んでいるのです。」と書かれています(カトリック中央協議会発行「希望は欺かない」7より抜粋)。特にこの聖年のテーマを受け、助けを求める人々へ希望の光を照らし続ける事ができるように、教会があらゆる場所で証ししていく事ができるように思っています。

第7回 貧しい人々にとっての希望となるように

2025年 司教年頭書簡
 すべての人と
 希望の巡礼者となろう
 を受けて



生の転機となりました。東九条地域には日雇労働者が飯場が多くあり、疾病や障がいを抱え、駅や公園に野宿を余儀なくされる人々がおられ、「夜まわり活動」はそこから始まりました。バブル崩壊・リーマンショックと変遷を辿り、早40年となりました。社会構造や差別構造が生み出す貧困は、自業自得と片付けられる程、単純で無責任な話ではないと思います。その理由は実に様々に絡み合い、その人の心の傷や人格の否定等が積み重なり、一方で、その過程において、理解しようとする「誰か」の存在の欠如が問題だと思っています。

ひと言の声かけ、何故?と考えてみる真摯な向き合い方、側面に思いを馳せてみる事等。その人の「希望」を信じ、寄り添い、一緒に考えて歩み続けるという働きに、神の愛によって揺るぎなく招かれていると思うのです。困窮された中で生きる人々の喜びを取り戻すため、絶えず祈り、絶えず招かれ遣わされている使命を、喜びを持って忍耐し感謝し、神の愛を証しできますように。

きよと夜まわり通信

2025年 5月号



きようと夜まわりの会
 伏見教会信徒 谷本千里

京都教区正義と平和協議会 学習会
台湾と沖縄

帝国の狭間からの問い

5月31日

カトリック河原町教会において、京都大学大学院教育学研究科教授の駒込武さんをお招きして学習会を開催した。このところ耳にする「台湾有事」の可能性に対し、沖縄など西南諸島の要塞化が進められている現状について、キリスト者としてどのように理解し対応すればいいのかを考える手がかりとなる講演を聞いた。

駒込さんの専門は「日本の植民地教育史」「台湾近現代史」。

呉叡人さん（著書『台湾、あるいは孤立無援の島の思想』）と友達になったことが契機となり、戦後台湾がどのような歴史をたどり、そこに生きる人々がどのような想いだっただのか深く知りたいと



思ったと、自己紹介で述べられた。以下、講演内容の要約。

台湾の歴史を3つの段階に整理

1. 台湾割譲（1895年）

日清戦争が日本の勝利で終結し講和条約が結ばれた（下関条約）。そこで、台湾の割譲が決められた。

主な戦地は朝鮮半島だったため、なぜ日本に渡されるのが台湾なのか、台湾住民にとって割譲の知らせは衝撃的な出来事だった。エリート層が中心となり、清国政府に抗議文を提出、「台湾民主国」の独立宣言を発した。それに対して清国政府は、独立宣言をしたのだから割譲権を持たないとし、日本軍に対する台湾住民の抵抗を法に触れさせないようにすると同時に、民に対する責任を放棄した。

台湾住民は先住少数民族と17世紀以降大陸から移住した漢人、漢人の生活習慣を取り入れた先住民から構成されていたが、清国軍人の多くは大陸に逃亡。「台湾民主国」はあっけなく瓦解した。

日本軍近衛師団の侵攻に抵抗したのは民間人から構成される義勇軍だった。多くの犠牲者を生み、日本が「台湾平定」を宣言したのは講和条約から半年後。台湾住民は清国に対して「棄地遺民（棄て

られた土地に残された民）」という意識を持つようになった。

以後1945年

の日本敗戦まで台湾は日本の植民地となり、同化政策が行われた。

2. 中華民国への返還（1945年）

日本の敗戦によって、大国中心の国際秩序のもとで台湾住民の意向に関わらず、台湾の帰属は日本から中華民国へと変更された。

中華民国の成立は台湾割譲の後だったため、日本の領土に組み込まれ、同化政策によって支配されていた台湾住民にとって、中国語の理解もままならない状況だった。新たな統治者となった蒋介石は台湾住民を虐げたため、台湾住民の視点からすると、日本から中国に支配者が代わっただけという結果となった。

極度のインフレ、統治機構からの排除、兵士の横暴や性的暴行などが横行したため、行政改革を求めるデモを行ったところ、行政機関からの機銃掃射。それに対して各地で武装蜂起がなされたが



(1947年) 鎮圧され、知識人を中心として2万人近くが処刑された。

その後、中華民国の蒋介石は国共内戦に敗れて台北へ遷都(1949年)、台湾独立運動関係者や共産党関係者とみなした者を大量に投獄、処刑した。

3. 米中、日中共同声明(1972年)

中国は1つであり台湾は中国の一部であるとした。

台湾と沖縄

台湾の人々は日本の植民地支配に抗する経験の中で「台湾人」という意識を育んできた。中国大陸とは異なる歴史的経験の帰結である。「台湾は中国の一部」とみなす歴史認識は、近代における台湾固有の歴史的経験を無視、あるいは軽視するものではないか。

リベラル・左派勢力の間では、「台湾有事」は虚構ではないかと言われ、一方日本政府は「台湾有事」に備えて抑止力を高めるべきだと議論している。ただ問題なのは、両者に、台湾の人々自身がこの状況をどのように感じ、どう打開しようとしているのかという観点が抜け落ちているということだ。

台湾が自立を求めれば求めるほど、中

国の脅威が高まって要塞化されていく沖縄・西南諸島。どちらもが争いを避ける手立てはないのか。川満信一さん(沖縄のジャーナリスト、詩人。著書『沖縄における中国認識』)の発信に答えを求めたい。「大陸と大国主義に挟まれた島々の連帯を固め、ここは非武装地帯だと主張できる合意の体制をつくれるか」。

川満さんは沖縄の人々を、大国に挟まれ自らの意思で自らの歴史を決めていくことができない「島弧の少数民族」であるとし、台湾住民の思いが痛いほどわかるという。同様の立場におかれてきた沖縄と台湾が連帯し、大国主義路線に抗うことが可能なのではないかと、川満さんは述べている。

また、川満さんは、近代史の過程で植民者としての体験しか持ち得てこなかった日本(本土)国民に、無意識の大国主義があるのではないかと指摘している。

中国が台湾を侵略したとしても台湾人が投降すれば戦争にはならない、あるいは、台湾人が独立を求めなければ争いはならないという考えがあるが、台湾の人々は決して抑圧されることを望んでいないし、命運は台湾の人々が決めることだ。私たちができうる方法としては、

中国政府に「武力による威嚇」「武力の

行使」の抑制を求めること。そのためには、日本政府が中国に対する戦争責任と向き合い、西南諸島における米軍基地・自衛隊基地の縮小を図ることも必要となると駒込さんは締めくくられた。

お話を伺って

沖縄の歴史や、かつて日本が中国や朝鮮半島、東南アジアの国々に対して侵略戦争を仕掛け、植民地化していった事実が、意識から薄れている自分自身に気が付き愕然とした。無意識の大国主義が備わっていることを自覚し、そこに生きる人々の視点に立って考える謙虚さを忘れないようにしたい。

報告 京都教区正義と平和協議会

佐藤 恵





聖年 司祭・奉献生活者の祝祭 ミサ 6月25日

京都司教区カテドラル河原町教会において、「司祭・奉献生活者の祝祭 ミサ」が行われました。1府3県の京都教区内の司祭や奉献生活者が集まり、ミサが捧げられました。

大塚喜直司教は、「私たちは決して一人で歩んでいるではありません。信仰の旅は、支え合い、祈り合い、互いを高め合う関係なしには成り立ちません。神が与えてくださった共に歩む仲間と共に京都教区の共同体として、希望と宣教の熱意を分かち合いながら、新たな一歩を踏み出しましょう」と、話されました。

いつもこの京都教区時報のお知らせ欄で、練習予定を公開しています「コーロ・チェレステ」の皆さんが聖歌の奉仕をしてくださいました。最後に、聖年の賛歌「希望の巡礼者」を皆で歌い、希望を抱いてミサを終えました。

希望の光、神よ、あなたに歌います。尽きぬいのちの泉、あなたを信じます。

2025年聖年 公式聖歌「希望の巡礼者」より



だれをも取りこぼさず、すべての人を巻き込もうとした革新的な2021-2024シノドス。教皇フランシスコとシノドス第16回通常総会の連名により出されたその「最終文書」。本文のほかに、最終文書は「教会の生活と使命のための権威ある方向づけ」であり、「ペトロの後継者の通常の教導職に数えられるもの」と明言する教皇の「付記」と、シノドス後の使徒的勧告は公布しないことを告げる最後の全体会議閉会あいさつを含んだ「付録」を収める。

税込880円 著者・教皇フランシスコ、シノドス第16回通常総会
発行・カトリック中央協議会 発行日・2025/6/30



こんにちは シスター 共同宣教司牧担当者のシスターの紹介シリーズ

フィリピン人司牧担当 シスター信田祐子（無原罪の聖母フランシスコ姉妹会）

家庭の都合で一年ほど失礼しておりましたが、この度使徒職に復帰させていただきまし
た、無原罪の聖母フランシスコ姉妹会のシスター信田祐子と申します。ほかの姉妹たちとは
違い、私は生粋の日本人で、仏教徒の家に生まれました。カトリックの洗礼を受けることや
修道者になることは人生の選択肢にはありませんでした。しかし神様は人間の思いをはるかに超えるお方でした。



本会是在日フィリピン人への司牧のため、1989年に日本での
活動を開始しましたが、長い間、日本人の入会はありませんで
した。幸か不幸か、私は初の日本人として2010年に入会し、
本会唯一の日本人会員としてフィリピン北部管区に属していま
す。とはいえ「わたしたちの本国は天にあります」（フィリピ
ン 3：20）。私たちがそれぞれの違いを神様からの賜物として尊
敬し合い、信仰を支え合う教会共同体をみんなで実現してい
きましょう。

「映画を観よう」報告

7月5日㊥

望洋庵と青年センターの合同企画として、「映画を観よう」という企画を行いました
た！ みんなで観た映画は「ペイ・フォワード 可能の王国」。社会の先生が11歳の
生徒達に「世界を変えるために、君たちは何をするか？」という課題を出します。主
人公のトレバーは<誰かから良いことをしてもらったら、受けた人が別の3人に良い
ことをして繋げていく>という方法を思いつきます。

映画を観る前に、みんなで「より良い明日のために今日何をするか？」をテーマに
分かち合いました。ほとんどの人は「明日の自分の健康のために！」など、自分自身
のことに目を向ける人が多かったのですが（明日のためにと言われれば、そりゃそう
ですよ笑）、映画を観た後は「自分がもらったものを誰かにも渡していく」という
ことや「本当にその人のためって思っていたとしても、自分のエゴを押し付けてるか
もしれないよね」とか「結局は『僕・私のためにこうして』というのがキーワードだ
ったかもね」などなど、自分以外のところに目を向けて、映画についてみんなとあだ
こうだと議論をしました。

今後も、望洋庵と青年センター合同でいろんな企画をしていきたいと思っていま
すので、青年センターのInstagramや公式LINEから情報をチェックしてください
ね！

河原町教会 橋本仁子



お知らせ

司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教 区

信仰教育委員会

盛年のための1泊黙想会

日 時：9月14日⑧ 17:00～15日 ⑨⑩ 16:00
場 所：唐崎祈りの家（大津市唐崎1丁目4-1）
講 師：菅原友明師（京都教区司祭）
テーマ：「わたしは弱いときにこそ強いからです」
（Ⅱコリント12章8～10節）

対 象：36～50歳 未婚の方

問合せ：メールまたは FAX

shinko_kyouiku@kyoto.catholic.jp
FAX/075(223)3371

案内・申込方法は各小教区あて一斉メールにて配信済 HPにも掲載中

広報委員会

教区時報11月号の原稿締切日は9月22日⑧です。

下記までご連絡ください。

koho@kyoto.catholic.jp

カトリック京都司教区
ハラスメント相談窓口

ひとりで悩まないで、相談してください

- ◆京都司教区内における、司祭、修道者、信徒からのハラスメント被害
- 相談は、性別、年齢不問です。
- 過去のことでもお聞きします。
- 相談は被害者の周囲の方からもお受けします。
- 秘密は守られます。



075-223-3363

受付時間：月・火・木曜日 10時～16時

（祝日・年末年始・夏季休暇などを除く）
不在の場合もありますのでご了承ください。

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。Tel・Fax/072-722-0271

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

日 時：9月14日⑧ 14:00 聖歌練習
9月27日④ 17:30 練習後集会祭儀奉仕
団員募集中

場 所：河原町教会聖堂

問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェルステ（女声コーラス）

練 習：9月11日⑧ 10:00 25日④ 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊

新会員募集中

問合せ：075-561-5971 駒井和子

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会（聖書と典礼）

日 時：9月16日④ 13:00～15:00

場 所：河原町教会地下ヴィリオンホール

問合せ：鎌田 修 kamadaosamu@gmail.com

090-1976-5636

心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）

9月の主テーマ「教皇フランシスコ」

KBS京都 ⑧～⑩ 朝5:55

④ 朝5:15

ラジオ関西 ⑧～⑩ 朝5:35

⑧ 朝6:05

毎日放送 ⑧～⑩ 朝5:45

④ 朝4:55



カトリック京都働く人の家

読書会・遠藤周作「イエスの生涯」

日 時：9月14日⑧ 九条教会9時ミサ後

場 所：九条教会内働く人の家

対象者：どなたでも

問合せ：瀧野正三郎 090-8207-1831

きょうと夜まわりの会（夜まわり活動）

◇毎週月曜日（四条、市役所周辺等）

河原町教会集合 21:30、23:00頃まで

◇毎週木曜日（京都駅周辺、西京極運動公園等）

京都駅八条口東側改札付近集合 22:00、23:20頃まで

問合せ：本田 090-6321-6225

jinan@mbox.kyoto-inet.or.jp

参加希望の方はご一報ください。

（P.1に関連記事）

